

# 文字もじMOJIの世界

## 19. モリソンとダイアの墓

小島 正彌\*

東方基金會の写真



ひと頃「日本にもカジノを……」と言う話があった。

近頃は話題に上らないが、話は深く潜行して進んでいるのだろうか？

カジノと言えばラスベガスにマカオにシンガポール。この秋、そのマカオを十年ぶり訪問した。十年前のマカオ、特にコタイ地区一帯は開発中で、掘り返した赤茶色の地表に覆われていた。唯一、ヴェネチアン・マカオ・リゾートだけが赤土の中にその華麗で豪華な佇まいを晒していた。

今はヴェネチアン・マカオ・リゾートの周囲にギャラクシー、リッツ・カールトン、フォー・シーズンズ、スタジオ・シティ、シェ

ラトン・グランド・マカオ、コンラッド・マカオ・コタイ、ホリデイイン・マカオ・コタイ・セントラル、セントレジスト・マカオ・コタイ・セントラル、グランド・ハイアット・マカオ等々、カジノやカジノを備えたリゾートホテルが建ち並んでいる。十年前とは別世界だ。

さて、十年ぶりのカジノ詣での結果や如何。

西北大学芸術学院（中国西安）で教鞭を執りながら、中国語活字史を研究している孫明遠さんが「マカオに行くならロバート・モリソン<sup>1)</sup>とサミュエル・ダイア<sup>2)</sup>のお墓にお参りしてくるといいよ」と勧めてくれた。孫さんはた

だ「外国人墓地のような所にあるよ」と教えてくれただけで、誠に漠とした大陸的な情報だ。マカオはさして広い所でもなし、何とかなるだろうと、こちらも軽い気持ちでコタイのホテルを後に、とりあえずシティー・オブ・ドリームズのシャトル・バスでマカオ半島に向かった。

モリソンもダイアも明朝体の源流を辿ると必ず出会う宗教人だ。

グランド・リスボアの前でシャトル・バスを降り、それと思しき墓地のあるルイス・カモンエス公園を目指して歩き出す。道は直ぐに上りにかかる。以後、ズッと上り坂。サンアントニオ教会の壁伝いに坂道を右に回り込むと、小さなバスロータリーがあり、その向こうにルイス・カモンエス公園の入り口が見える。その右に“FUNDAÇÃO ORIENTE 東方基金會”と掲げたサーモン・ピンク色をした可愛い門が見えるが、門は閉まっている。

「探している墓地がこの門の中だとすると、今日は見つけれないな」

“東方基金會”の門のさらに右に小さな黒い門がヒソリと開いる。その門の上に“PROTESTANT CHAPEL AND OLD CEMETARY [EAST INDIA COMPANY 1814]”と彫られて



モリソン礼拝堂

いる。門柱に貼られたステンレス板には“聖公會馬禮遜堂 Morrison Chapel”と刻まれている。この門の奥にモリソン礼拝堂と墓地があるようだ。ステンレス板には“8時30分から17時30分まで公開”ともあるので、この小さな門をくぐる。

門を入ると直ぐ目の前に何とも可愛らしい白く塗られた小さな礼拝堂が建っている。なるほど、これがモリソン礼拝堂か。礼拝堂の入り口は鍵が掛かっているようで、扉の把手を回しても開かない。ガチャガチャ把手を回す音が聞こえたのか、礼拝堂の裏の方で犬が吠え始めた。周囲を見回すと、門の内側の壁に掲げられた掲示板に“毎日曜日午前9時から聖餐式が行われる”とあった。

モリソン礼拝堂の裏に、一段低くなった墓地があった。墓地の東半分は少し伸び過ぎた芝が一面を覆っている。西側は石畳。東西合わせて150基ほどの墓碑や石棺が並んでいるだろうか、他に訪う人の姿もなくヒソリとしている。先ほどからの犬の吠え声は無視して礼拝堂の横手に設けられている広くてゆるい石段を降りる。

ロバート・モリソンのお墓はここにあるはずだ。

見落としてはいけないので、西側の墓地から一基一基の墓碑を見て行くが、“Robert”と彫られた墓碑も石棺も見つからない。石畳を見通すと西側の一番奥に門扉ほどの大きさの、作りも立派な墓碑がある。この墓地で一番大きな墓碑のようだ。はやる気持ちを抑えて墓碑を読むと、そこに彫られている名前は“GEORGE CHINNERY<sup>3)</sup>”。別人だった。



モリソン礼拝堂の裏にある墓地

ここから芝に覆われた東側の墓地に下りる。期待を裏切られつつも諦めずに一基ずつ墓碑に刻まれた名前の中に“Robert”を探す。判読すらできないくらいに薄れた文字もある墓碑は、とうとう墓地右奥の一角に並ぶ最後の数基のみになってしまった。

その中に見つかったのは案に相違してサミュエル・ダイアの名前だった。ダイアの石棺の側に幅30センチメートル、高さ40センチメートルほどのステンレス製の立て札が立っている。上段には中国語で、下段には英語で次のように記されていた。

追念

台約爾牧師

馬亜の父親

戴徳生の岳父

「他們雖至於死，也不愛惜生命。」

啟示錄十二章 11 節

「任何使我無法為中國捨身的意念，  
都會令我極其沮喪。」

台約爾

戴徳生子孫敬立

二〇〇六年

IN REMEMBRANCE OF  
Sumuel Dyer  
Father of Maria Dyer Tayler  
Father-in-law of J. Hudson  
Tayler

"They did not love their lives so  
much as to shrink from death"

Revekaation 12:11

"If I thought anything could  
prevent my dying for China, the  
thought would crsh me"

Sumuel Dyer

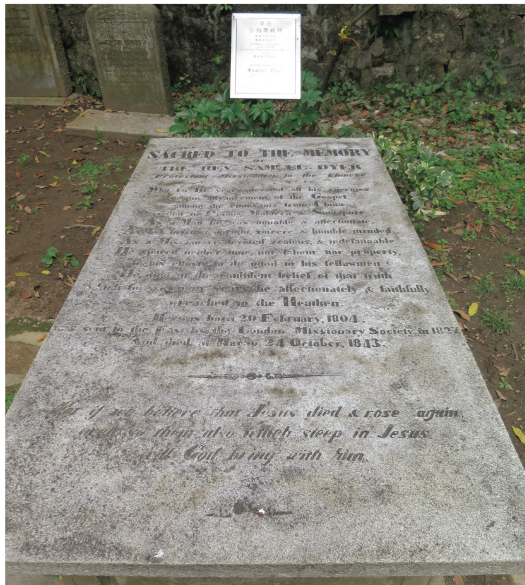
BY THE DESCENDANTS OF J.  
HUDSON TYLER

-- 2006 --

石棺の蓋の表面には次のように  
刻まれている。



\*MASAYA, Kobatake  
ダイナコムウェア株式会社 顧問  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町  
2-38  
kobatake@dynacw.co.jp



サミュエル・ダイアの墓



ロバート・モリソンの墓

SACRED TO THE MEMORY  
OF  
THE REV SAMUEL DYER  
Protestant Missionary to the  
Chinese,  
Who for 16 years devoted all his  
energies  
to the advancement of the  
Gospel  
among the emigrants from  
China  
settled in Pinang Malacca and  
Singapore.  
As a Man, he was amiable &  
affectionate,  
As a Christian, upright, sincere,  
& humble-minded,  
As a Missionary, devoted  
zealous, & indefatigable.  
He spared neither time, nor  
labour nor property,  
in his efforts to do good to his  
fellowmen.  
He died in the confident belief  
of that truth

which for so many years he  
affectionately & faithfully  
preached to the Heathen.  
He was born 20 February 1804,  
Sent to the East by the London  
Missionary Society in 1827  
And died at Macao, 24 October.  
1843.  
-----  
For if we believe that Jesus died  
and rose again,  
even so them also which sleep  
in Jesus  
will God bring with him.

この墓地にロバート・モリソンの墓を探しに来て、何処にあるのか定かでは無かったサミュエル・ダイアの墓に出会えたのは嬉しかった。残る数基の石棺の中にロバート・モリソンの墓が見つかるのだろうか。なんと最後に見た石棺の蓋に“ROBERT MORRISON”と刻まれていた。モリソンとダイアはこの一角に並ぶようにして眠

っていた。二人の墓が並んでいるのを見つけたときはチョット感動した。  
ロバート・モリソンの石棺の蓋には次のように刻まれている。

SACRED  
TO  
THE MEMORY  
OF  
ROBERT MORRISON DD.,  
The first Protestant Missionary  
to  
CHINA,  
Where after a service of twenty-  
seven years,  
cheerfully spent in extending  
the kingdom of the blessed  
Redeemer  
during which period he  
compiled and published  
A DICTIONARY OF THE  
CHINESE LANGUAGE,  
founded the Anglo Chinese  
College at Malacca

and for several years laboured  
alone on a Chinese version of  
THE HOLY SCRIPTURES,  
which he was spared to see  
completed and widely circulated  
among those for whom it was  
destined,  
he sweetly slept in Jesus.  
He was born at Morpeth in  
Northumberland  
January 5 1782  
Was sent to China by the  
London Missionary Society in  
1807  
Was for twenty five years  
Chinese translator in the  
employ of  
The East India Company  
and died in Canton August 1st

1834.

-----

Blessed are the dead which die  
in the Lord from henceforth  
Yea saith the Spirit  
that they may rest from their  
labours,  
and their works do follow them.

何処へ行っても変わらないのが  
墓地につきものの蚊。モリソンと  
ダイアの墓を見つけるまでに首筋  
や腕のあちこちがぷっくりと赤く  
腫れている。ここに来て急に痒く  
なってきた。

カジノでの成果よりも何よりも、  
モリソンとダイアに巡り会えた実  
り多いマカオ行きだった。

(つづく)

1) ロバート・モリソン (Robert Morrison, 馬礼遜, 1782 - 1834)  
イギリスのロンドン伝道協会の宣教師。  
中国に渡った最初のプロテスタントの宣  
教師。イギリス東インド会社の通訳官と  
なったモリソンは、世界初の英-中・中-  
英の『中国語字典』をマカオで刊行して  
いる。1834年、東インド会社の一員と  
して広州へ赴いたが、そこで病死しマカ  
オに葬られた。中国語訳聖書を最初に出  
版した人としても知られている。

2) サミュエル・ダイア (Samuel Dyer, 台約爾, 1804 - 1843)  
英国プロテスタント・クリスチャン協会  
の宣教師。中国人社会で活動した人。  
それまでの漢字の木活字に代わる評価の  
高い金属活字を作ったことでも知られて  
いる。1843年、広州を訪れた際に重篤  
な病に倒れマカオに連れ戻されるがそ  
で亡くなった。

3) GEORGE CHINNER (1774 - 1852)  
イギリス生まれの画家。その人生の大半  
をインドや中国南部で過ごした。特に没  
するまでの25年間はマカオを拠点に活  
動した。

## 印刷トラブル防止のツボ ～オフセット現場の改善実録～

- ◆印刷現場でお悩みがある方
  - ◆生産効率を上げたい方
  - ◆機械を少しでも長く使いたい方
- などなど必携の一冊！

大塚彰 著

A5 判 350 ページ 本体価格 3800 円 + 税



株式会社 印刷学会出版部

<http://www.japanprinter.co.jp>